

知床沿岸域は、海氷ができる海洋の中では世界で最も低緯度に位置し、この海氷がもたらす豊富なプランクトンにより多様で豊かな海洋性生物が育まれる。知床沿岸域で遅く育ったサケ科魚類が知床半島内の河川を遡上することによってヒグマや猛禽類の貴重な餌資源となり、陸と海の生態系のつながりを生む。また、知床半島の複雑な地形と東西での気候の違いにより、知床半島固有種のシレットコスミレや絶滅危惧種のシマフクロウに代表される多様な生物種を見ることができる。

## 知床の景観

知床八景：知床半島の8箇所の名勝

- プユニ岬
- フレベの滝
- 知床峠
- 知床五湖
- カムイワッカの滝
- オシンコシンの滝
- オロンコ岩
- 夕陽台

※世界自然遺産区域外



プユニ岬



フレベの滝



知床岬から望む羅臼岳

## 知床半島に生息する野生生物

- シマフクロウ
- オオワシ
- クマゲラ
- オジロワシ
- ヒグマ
- キタキツネ
- シレットコスミレ 等



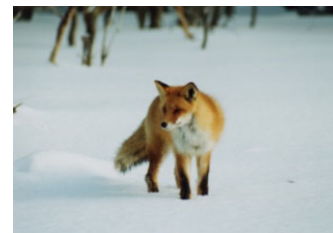
シマフクロウ



クマゲラ



オオワシ



キタキツネ



ヒグマ



シレットコスミレ

# 「知床」における林野庁の取組

- 知床の「森林生態系保護地域」については、1990(H2)年に知床半島の中心部、さらに2004(H16)年に遠音別岳周辺地域まで拡大し、約4万6千haの国有林野（世界自然遺産地域のうち陸域の約94%）を設定。
- シマフクロウや中小型哺乳類等のモニタリング、エゾシカによる食害対策、淡水魚類の生息状況調査等により適切に保護・管理。

## 知床 森林生態系保護地域

保存地区 31,915ha

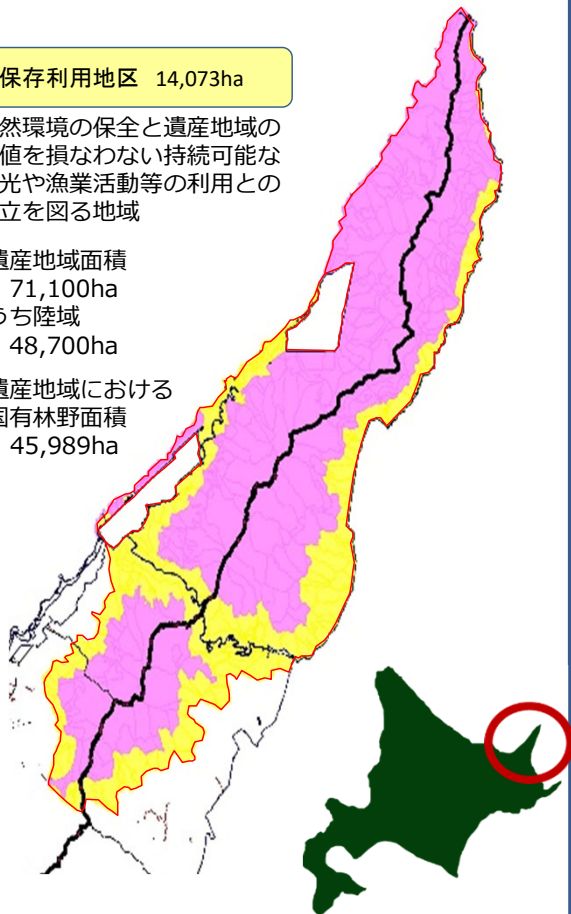
: 将来にわたり厳正な保護・管理をはかる地域

保存利用地区 14,073ha

: 自然環境の保全と遺産地域の価値を損なわない持続可能な観光や漁業活動等の利用との両立を図る地域

遺産地域面積  
71,100ha  
うち陸域  
48,700ha

遺産地域における  
国有林野面積  
45,989ha



## グリーンサポートスタッフ による森林保全

- グリーンサポートスタッフ（森林保護員）が知床世界遺産地域及び隣接国有林野における植生や歩道の荒廃に重点を置いた巡視、軽微な歩道整備、入林者へのマナー指導等を実施



活動の様子

## 野生生物の巡視・調査

- 希少な野生生物であるシマフクロウの生息状況等を巡視
- 自動撮影カメラによる中小型哺乳類等のモニタリングを実施
- 地球温暖化の指標となるオショロコマの生息状況を調査し、世界遺産委員会に報告



オショロコマ



シマフクロウ

## エゾシカによる食害対策

- 採食圧による急激な植生の変化や希少種植物群落の衰退が懸念される  
↓
- 囲いワナによる捕獲や車両からの狩猟（モバイルカリング）を実施
- 自治体や地元農場と連携し「ジビエ」として食肉に活用



エゾシカによる食害の様子

- エゾシカの食害を防止するため、知床岬など3箇所植生保護柵を設置
- 植生保護柵の隣接地に対照区を設け、保護柵内外の植生調査を実施し、エゾシカの増減との関係や植生の回復状況等を調査



植生保護柵